

スターシップ・トゥルーパーズ 2

2004(平成16)年8月20日鑑賞(ユウラク座)



監督=フィル・ティベット/出演=リチャード・バージ/コリーン・ポーチ/エド・ローター/ケリー・カールソン (ソニー・ピクチャーズエンタテインメント配給/2003年アメリカ映画/92分)

……近未来の地球連邦軍 VS. ^{バグ}昆虫型生物との闘いを描いたシリーズもの。撃っても撃っても押し寄せてくるバグ軍団との闘いは観ていて疲れるが、それ以上に、口から人間の体内に寄生するバグを目のあたりに観ると気味悪さが……。登場人物も次々とヘンになっていくので、せっかくの美人女優ももったいない……。君はこんな映画、好き？ それとも嫌い？

STARSHIP TROOPERSとは？

この映画はタイトルからわかるとおり、前作『スターシップ・トゥルーパーズ』(97年)に続くパートII。前作の舞台は西暦×××年の近未来。クレンドラス星系危険区域内であるダンタナ星には、未知の昆虫型生物アラウンド(通称バグ)が大量生息していた。地球のモルモン急進派が、当局の警告を無視して、そこに植民開拓基地「フォート・ジョセフ・スミス」を建設したが、この開拓基地はバグによって全滅させられた。さらに、クレンドラス星のブラズマ・バグから発射されたブラズマ・エネルギーは、地球を直撃し、ブエノスアイレスを消失させるなどの大規模な被害を与えた。そこで地球連邦軍は、クレンドラス星への総攻撃を開始し、ここにクレンドラス星での人類とバグとの間による全面戦争が展開されるに至った。パートIのお話はざっとそんなもので、パートIIはそれに続くもの。

地球連邦軍は大苦戦

敵の惑星で、バグとの戦闘を続けるジェン・J・G・シェパード將軍(エド・

ローター)率いる地球連邦軍は大苦戦。いくら殺しても殺しても、バグが次から次へと押し寄せて来るのだから、そりゃ大苦戦するのは当たり前。そんな中、女性兵士のレイ・サハラ二等兵(コリーン・ポーチ)や男勝りのディード・レイク軍曹(ブレンダ・ストロング)、そしてジル・サンディー二等兵(サンドリース・ホルト)らは、ディール中尉の指揮の下、勇敢に戦闘を続けたが、撤退をやむなくされ、やっとの思いで前哨基地の中へ逃げ込んだ。

ダックス大尉の登場

シェパード将軍のもとの士官はディール中尉だったが、ディール中尉は何か怯えている様子。そんな中、前哨基地の中では、ゴミ焼却炉の中に閉じ込められていたダックス大尉(リチャード・バージ)が発見された。彼は青銅星賞、パープルハート勲章を受勲する功績を持っていたが、戦場で上官の命令を無視してその上官を殺害したため、そこに幽閉されていたとのこと。しかし、このダックス大尉は歴戦の勇士。シェパード将軍は、彼を士官としてバグからの防御戦の任務に従事させた。

前哨基地内での恋愛模様は何かヘン？

シェパード将軍とともに前哨基地内に逃げのびてきた3人の兵士のうちの1人は、若い美貌の女兵士、チャーリー・ソーダ二等兵(ケリー・カールソン)。彼女は、その意識が回復するや、大胆なヌード姿を見せながら、兵士たちを誘惑していった。こりゃ一体何だ！こんなに隊規が乱れてもいいのか、と思って見ていると、これは後述のように、進化したバグがなせる技のよう。次々と広がる恋愛模様の中で、まともな人間が1人、また1人と減り、バグに寄生されたヘンな人間(?)が増えていった。そしてついには、しっかり者の女性軍曹レイクまでも……。ソーダ二等兵はすごい美人だけに、こんなヘンな役に使わず、もっとスマートな役にしてほしいかと思うのだが……。

より凶暴にさらに狡猾に進化したバグ軍団！

パートIでは、バグは大きくて凶暴な昆虫型生物だけだったらしいが、パート

IIでは小型のものや人間に寄生するタイプのものが登場する。そして、何とも気味悪いのは、その寄生の仕方、それは口移しで人間の体内に入っていくというもの。もともと気味の悪いシーンの苦手な私は、思わず目をそむけるシーンの連続。パンフレットの中には、これらのバグの詳細な能力や寄生の仕方が書かれているので、興味のある人はそれを参照してもらえばいいが……。

バグたちの狙いは？

次々と人間に寄生していくバグたちの狙いは何か？ それは、シェパード將軍の体内に寄生した上で救援軍とともに地球にもどり、その將軍をうまく利用して……という恐ろしいもの。それに気づいたダックス大尉とこの映画のヒロイン、サハラ二等兵たちの苦しい戦いが続いていくが……。

ダックス大尉は英雄か？

映画は、地球連邦軍がバグとの戦況の実態を隠して、「英雄求む！」という派手なコマーシャルを流しているシーンからスタートする。サハラ二等兵を救援のヘリに逃れさせたダックス大尉は、バグに寄生されたシェパード將軍をやっつけたものの、自分もついにバグの犠牲に……。しかし、映画のラストでは、再び地球連邦軍は、このダックス大尉が華々しく戦う姿を映し出しながら、今日も「英雄求む！」の大コマーシャルを……。果たして、ダックス大尉は本当に地球連邦軍の、そして地球の英雄だったのだろうか……？

好きか嫌いか？

この手の映画の評価基準ははっきりしている。すなわち、好きか嫌いかということだけ。そして私は明らかに嫌い。銃を撃ち続けてバグを殺し続けるシーンもいい加減飽きてくるし、人間に寄生する気味悪いシーンは、お金をもらっても観たくない。その上、美人女優のケリー・カールソンもいい役柄になっていないから、いいとこなし。もっとも私は、この手の映画が好きな人は、どうぞ楽しんで観てもらえればと思っているので、それは念のため……。

2004(平成16)年9月2日記